

プリオン専門調査会における調査審議の経緯

2003年7月1日(火)
食品安全委員会発足。

8月29日(金)

- ・ 第1回プリオン専門調査会会合を開催。 BSE 問題全般について議論を行っていくことを確認。「伝達性海綿状脳症に関する牛せき柱を含む食品等」の調査審議。

10月7日(火)

- ・ 第2回プリオン専門調査会会合を開催。 「アルカリ処理をした液状の肉骨粉等の肥料利用について」の調査審議。

11月27日(木)

- ・ 第3回プリオン専門調査会会合を開催。 「BSE 発生国からの牛受精卵の輸入、豚由来たん白質等の飼料への利用について」の調査審議。

12月24日(水)

- ・ 米国ワシントン州において BSE 感染牛の確認。

12月29日(月)

- ・ 米国の BSE に関する第1回日米会合の開催。

12月30日(火)

- ・ 米国農務省が BSE 対策の追加的措置を発表。

2004年1月8日(木)

- ・ 政府合同の調査チームを派遣。
- ・ 第26回食品安全委員会会合において、第1回日米会合の概要報告。

1月20日(火)

- ・ 第28回食品安全委員会会合を臨時に開催。政府合同調査の概要報告。

1月22日(木)

- ・第4回リスクコミュニケーション専門調査会会合において、米国 BSE の発生に関して報告。
- ・国際調査団（スイス、米国、英国及びニュージーランドの専門家で構成）が米国 BSE に対する調査を実施（24日まで）。

1月23日（金）

- ・米国の BSE に関する第2回日米会合の開催。

1月29日(木)

- ・第30回食品安全委員会会合において、第2回日米会合の概要報告。

2月3日（火）

- ・**第4回プリオン専門調査会会合を開催。** BSE 問題全般について議論を深めていくことを確認。米国での BSE 発生に伴う海外調査及び日米会合の状況について報告。

2月4日（水）

- ・国際調査団が米国政府に報告書を提出。

2月20日（金）

- ・**第5回プリオン専門調査会会合を開催。** 国際調査団の団長を努めたキム博士を招き、米国における BSE に関する措置について議論。

2月21日（土）

- ・国際シンポジウム「動物プリオン病の診断と疫学～BSE への新たな対策に向けて～」の開催（内閣府食品安全委員会他後援）。

3月3日（水）

- ・**第6回プリオン専門調査会会合を開催。** 英国海綿状脳症諮問機関のスミス委員長を招き、英国における BSE 及び vCJD の状況について議論。

3月15日（月）

- ・USDA が、新たな BSE サーベイランスプランを発表。6月1日から高リスク群の検査頭数拡大、健康な高齢牛のランダムサンプリングを行う予定。

3月26日(金)

・**第7回プリオン専門調査会会合を開催。**

「豚由来たん白質等の飼料利用について」調査審議、第4回調査会で確認すべきとされた米国 BSE 問題に関する情報の収集状況について報告。

4月15日(木)

・第41回食品安全委員会会合において、OIEの小澤名誉顧問がOIE国際獣疫事務局(OIE)とBSE関連の国際基準について講演。

4月20日(火)

・「食品に関するリスクコミュニケーション - BSEに関する講演会 - 」の開催。

4月22日(木)

・**第8回プリオン専門調査会会合を開催。**「豚由来たん白質等の肥料利用について」の調査審議。また、今後、BSE問題全般について議論を深めるため、我が国において講じられたBSE対策の中で得られたデータ、EC科学運営委員会の情報等を収集、整理していくことを確認。

4月24日(土)

・米国のBSEに関する第3回日米会合を開催。

5月5日(水)

・米国テキサス州でBSEに合致する中枢神経症状を示す牛が検査されずにレンダリングされた事実が判明したことを受け、USDAのAPHIS動物検疫部及びFSISは検査手順の徹底を通知。

5月7日(金)

・米国ニュージャージー州政府は、同州におけるvCJDの集団発生について、BSEとの関連を示す証拠はないとする調査報告を発表。

5月14日(金)

・**第9回プリオン専門調査会会合を開催。**

EC科学運営委員会の役割・評価報告例について調査審議。また、農林水産省の疫学検討チームの報告書を基にわが国におけるBSEの発生規

模の予測について調査審議。

5月18日(火)、19日(水)

- ・日米 BSE 協議に係る第1回専門家及び実務者会合の開催。

6月1日(火)

- ・第10回プリオン専門調査会を開催。